

施策番号	1201		
施策名	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信		
概要	景観、観光、文化、環境等、京都がもつ魅力を向上させ、世界各国に効果的な情報発信を行うとともに、海外からの訪問者が快適に行動できるよう受入環境の充実を図り、世界中のひとびとを引き寄せるまちとする。		
担当局・部室	総合企画局・国際化推進室	共管局・部室	産業観光局・観光M I C E推進室
上位政策	12 国際化		
施策に関する主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン，京都観光振興計画2020，京都市M I C E戦略2020		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	コンベンション参加者数(人)	a	c	140,253	157,300	202,996	77.5%	c	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	c	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答							
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価	
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	a	142	308	142	46	30	668	b	
				21. 3%	46. 1%	21. 3%	6. 9%	4. 5%			
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	b	b	125	286	180	32	24	647	b	
				19. 3%	44. 2%	27. 8%	4. 9%	3. 7%			
3	-	-	-							-	
4	-	-	-							-	
5	-	-	-							-	
		a	a	市民生活実感調査総合評価							b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	☐ 客観指標	c	☒ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 世界への京都の魅力発信に対する評価は、市民の意識が重視されるべきであると考えため、また、京都の魅力は多岐にわたるものであり、客観指標総合評価では全ての分野が網羅できないため、市民生活実感調査総合評価を重視する。						平成30年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・平成30年については、10月に国立京都国際会館のニューホールオープン等もあり、過去5年間のうちで2番目の総参加者数となったものの、過去最高値である平成28年の数値には大きく届かなかったことによりc評価以下となった。						平成29年度	A
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	京都文化交流発信事業の推進	5,380	8,962	悪い	総合企画局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・「京都市MICE戦略2020」に基づきMICE助成金制度の拡充や大学との連携強化等に取り組んでおり、この5年で着実に成果として現れていることから、引き続き、これらの取組を進め、更なるMICE誘致・支援に努めるとともに、コンベンション参加者数を更に増加させる。

施策名	1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信				
指標名	コンベンション参加者数（人）					
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5		
1 指標の説明						
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した人数						
2 指標の意味						
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都開催の国際会議」，日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」						
4 数値						
	前回数値 平成29年	最新数値 平成30年	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	140,253	157,300	17,047人増	202,996	過去5年間の最高値	77.5%
	全国順位	中長期目標				備考 数値の公表時期の関係により，評価は暫定値で行う。 前回数値については実数に修正している。
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						
5 評価基準						
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満						
6 基準説明						
各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため，過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 202,996人（平成28年） 上中間値 173,563人 平均値 144,129人 最低値 96,020人（平成25年）						
7 評価結果						
平成29 平成30 令和元						
a c c						